

くすのき通信

Vol.3

小平第十四小 ・ 小平第二小 ・ 学園東小 ・ 花小金井小 特別支援教室「くすのき」

行動制限がある中、長い夏休みをどのように過ごされましたか。

家の中に居ることが多くなり、ゲームを行うルールが曖昧になったり、チャットでの行き違いが起こったり、いつもとは違う困り感が発生したかもしれません。ご家庭で困っていることがあれば、連絡ファイルや9月中に保護者面談もありますので、どうぞお知らせください。まだ先の見通しがもてないコロナ禍にあって、私たちが一番心掛けたいのは、子どもも大人も安心感がもてる関わり合いです。心配なことは一緒に考えていきましょう。

良かったことも嫌だったことも、子どもたちにとっては全てかけがえのない経験になったことと思います。経験を次に生かせるように、夏休み明けに子どもたちから話をよく聞いて、2学期も一人一人がステップアップしていけるように支えていきます。今後ますますのご協力をよろしくお願いします。

～くすのきの学習について～

週1回2時間(退室が近い児童は1時間)で何に取り組むか、優先順位をつけて一人一人の指導内容を考えています。小集団活動、課題別活動それぞれでどのような内容を1学期に行なったのかをご紹介します。

課題別学習あれこれ

「気持ちの数値化」

小集団の授業中、嫌な気持ちが溢れ、教室を飛び出した子。次の時間の課題別で、「気持ちの温度計」を使いながら振り返り、嫌な時は〇度だったけれど、今は下がって落ち着いていることに気付きました。数値化すると客観的に見ることができ、方策を考えられます。

「文章作りのスモールステップ」

日記や観察文、国語の読解教材など、何をどこから書いたらよいのか決められず、書くことが苦手という子は多いです。まず「イメージマップ」で思いついた単語をどんどん書いていき、共通項でつなぎます。書く順番や一番書きたいことを膨らませていくとうまくいきます。

「得意なことから学習へ」

入学したての1年生、時間割に合わせて動く学校生活に疲れてしまい、休みがちです。筆圧が弱く、ひらがなを書くことも苦手でした。科学的な題材が好きなので、くすのきでは得意な題材から書くことや1年生の学習につなげていき、学校が大好きになりました。「鉛筆体操」や「ビー玉キャッチ」の活動にも取り組み、書くことが安定しました！

「ちょうちょ結び」

どう結べばよいかイメージしにくいことの一つです。2色の紐を使って教わり、できるようになりました！

「学級担任・保護者と連携して相談、解決」

1対1の課題別では、なかなか学級や家庭で話せないことも、自分の言葉で話せる場になっています。必要に応じて、担任に直接相談することを勧めて一緒に解決することもありました。

例えば、勝敗のこだわりで学級の体育で行うチーム戦に参加できない子は、どうしたら参加できるか相談し、担任と連携して「アウト」を「オッケー」という言葉に変更したり、チーム分けを工夫したりすることで参加できました。「聞いてもらえるから話せる、話したら解決できた」という体験になりました。

また、保護者が連絡ノートを通して家庭での様子や困り感を伝えてくださるおかげで、子どもから話題を引き出し解決できることも多々ありました。ありがとうございました。

小集団だからこそ「できた!」「わかった!」

「のびのびタイムでコミュニケーション」

負けた時どうする？ 友達への譲り方は？

のびのびタイムの活動中、意外とどの子も戸惑う姿が見られるこの場面。簡単そうに見えて負けたら我慢しないで「くやしい!」と言ってみることで、「負けの受け入れ」ができるようになることが多くあります。相手に順番などを譲る時は「いいよ。」「どうぞ。」と声に出すことで相手に伝わります。運動中心ののびのびタイムですが、そういったコミュニケーションの学習もしています。

「フレンズお悩み相談」

相談活動では、「正解を当てることより、話し合いに全員が参加していることが大切」と伝えていきます。一人の困っていることを全体で取り上げて、みんなで考えることで、「わかる!」「あったわー。」と共感!あるいは、「私はそうは思わない。」を率直に伝えることで、人によって感じ方が違うという勉強ができました。

「ロールプレイ グループを作るには」

学級で二人組やチームを作る時の声のかけ方など、子どもたちが困っている事例を具体的に取り上げ、ロールプレイをします。実際に声をかける練習をしたり、声をかけられた時の練習をしたりして、普段の生活で子どもたちが困らないようにしています。

「自分のペースで考えて 自信をもって発言!」

小集団では、学級では言い出せない発言やひらめきを、自分のペースで伝えられることが多くあります。また活動する前にルールを確認することで、みんなで公平に楽しめることができます。マイルールで発言してしまうと責められてしまうことがあるので、途中で取り入れたいことがあったら、その都度必ずみんなで共有しています。話し合いや作戦タイムでは必ず「理由を言う」、「発言する」。そうすれば、相手に理解、共感されることが増えてきます。

「視覚的に振り返り」

子どもたちの言ったことや関わったことをホワイトボードで記録して、振り返りを行っています。自分の発言を文字で振り返ることで、「この発言ややり取りの仕方いいね!」「この態度はどうか。」など、客観的に自分を見る経験を増やすこともできます。

「フレンズ お楽しみ会」

お楽しみ会を成功させるは、役割分担や見通しをもって準備することなど、たくさんの技術や能力が必要になります。あるグループは、1学期最後のお楽しみ会で、司会、ゲームの説明、始めの言葉、終わりの言葉の4つの役割を一人一人が担いました。苦手なことにも挑戦し、活躍の場が得られました。

「自分の感覚や気持ちに気付く大切さ」

外からの刺激を自分がどう受け止めているかに気付けるように、触った感じや耳をすますこと、一部を見て想像したことを言葉にしました。快不快や好き嫌いの感覚を分化させるのは自己理解の一步です。感じ方の違いや、「共有」できたことが「他者の気持ちの理解」につながります。2学期はさらに、自分の考えをしっかりと、相手に分るように伝えていく力を育てたいです。

「手で重さを感じよう、比べてみよう」

1回目にいくつかの物を手で重さ確かめて順位をつける活動を行いました。自分の感覚を頼りに話し合い、2回目動物(鳥)の卵の大きさから想像して、これまでの知識やイメージを出し合うことでお互いの考えを知り、みんなが納得いく形で順位をつけました。意外なものもあり、新鮮な驚きや自然の不思議さなどを感じさせてくれました! 感覚を使ってこんな授業も行っています。

2学期につなげていきましょう! よろしくお願ひします!

